



森のなかま

2010年 12月号

NO. 32 (継続177)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

平成22年 成長の森 見学会

財団法人 トラストみどり財団主催のイベントH22—成長の森見学会は快晴の11月3日(文化の日)と13日(日)に計、約600人の方々をお迎えしてかながわ森林インストラクターの面々がお案内いたしました。1区画に広葉樹、7種310本が植栽されています。事故もなく秋晴れの中、楽しい一日を皆様満喫されました。

成長の森見学会 風景

酒井 房次郎<10期>

驚! 驚! 本日の主役県民の方々はお誕生記念植樹をされた幼児を想定し、受付をしている中、乳児と思われる双子の赤ちゃんがダブルベビーカーに乗り、お若い夫婦に押されての登場。おや! 補助介添えのおじいちゃん・おばあちゃまはどちら? と見渡すが姿は見えぬ。森への山道を思い出し、誘導役の重大さを感じる。

9時40分、1号車より4台のバスはゲートへ出発。車内はお子さんの健やかな成長と苗木の成長を重ね合わせようと寄付された方々の笑顔が其処ここに見られ、和やかな雰囲気満ちていた。

名前・顔・人数の確認は、第一回見学会よりの引き継ぎ事項。最初は各家族の申込者と参加者の姓名を呼び、次回からは代表一名での確認とさせて頂いた。そして本日のおおよそのスケジュール、混交林への一歩となる成長の森づくりへの協力に感謝するうちにバスはゲートに到着。

広場より約15分の林道は乳母車可であったが、1号車は全員おんぶ又は抱っこであった。林道より成長の森への山道は、H21年までの森に比べ階段状の道はほとんど無く、勾配も緩やかで、非常に歩きやすく造られていた。約30分の山道はどうやって来ているのか、ゆっくりと登りながら振り返ると、祖父母にはさまれ、手を引かれながらも一生懸命に一步一步・よちよちと親と一緒に歩く子、またおんぶされながらもニコニコしている顔。皆さんに「良い森」と説明した杉林、間伐が行き届き、枝を自ら落とした樹齢50年生以上の透き通った明るい光の中で、家族全員で高みを目指す強い家族の絆が見られ、日本の将来もまだ明るい光の中にあることを実感した。

そして一歩を踏み出すごとにカサカサと心地よい音が出る平坦な尾根道に出る。寄沢と反対斜面は降り注ぐ陽光を一面に受け、見事に黄葉したコナラなどの落葉広葉樹林に変わり、「皆さんの成長の森は約20年後、このような林になるでしょう」との説明に感嘆の声。

やがて杉林が開け、銘板が垣間見られるうちに、7区画ある「H22年・成長の森」の中心地に到着。各区画では、お子様の名を発見し歓声。指をさし、家族でニコリの姿を写す係になり、共に喜びを分かち合う。柵のそばにあるヤマボウシ・コナラなどの苗木との写真も薦めるうちに下山の時刻になる。

帰路も余裕のある50分。相模湾を遠望し、クロモジやマムシグサを説明するうちに広場に到着。昼食は無料のシカシチューがふるまわれ、みなさんご機嫌でバスに乗車。「参加して良かった」「楽しい一日であった」の声と共に大きな拍手の中、予定通り14時に新松田駅前解散した。



写真: 広報部 (鈴木松弘・村井正孝)

かながわのブナ林(帯) 文化 ④

—— タベ、クマが出た！ が語るもの ——

飯 村 武

秋、酣（たけなわ）ともなると、全国の例にもれず丹沢山麓でも「タベ クマが出た！」と大騒ぎになる。農家の庭先の栗の枝は無残に押し折られ、幹の爪跡が生々しい。早速、猟友会になるところが、こんな凶式にこの頃は『待った！』が掛かることが多くなった。出現の原因について全国的には中山間地の過疎化などの論評が続く。

日本哺乳類図鑑には、ホッキョクグマ、ヒグマ、ツキノワグマの3種が記述されているが、丹沢のそれはツキノワグマで周年経過の概要は次のようだ。

性成熟は4歳ぐらい。交尾期は夏季で乱婚。折った枝で樹上に巣をつくり、春から夏にかけてここで日光浴をしたりする。晩秋から翌春まで冬籠りをする。その場所は樹洞などでほぼ隔年に2月頃普通2子を生む。

食肉目の動物なのに、食生は植物質を主とする雑食性である。冬籠りはほぼ3、5ヶ月に及び、この間食物を摂らない。だから彼らは夏から秋にかけて、実りをがっちり体の中に貯えなければならない。

山の実りには豊凶がある。豊作の年には順調に冬籠りが出来るが、凶作の年には餌を求めて山麓まで徘徊を余儀なくされるので、『タベ クマが！』の仕儀になるのだという。

このようなクマと上手に付き合ってきたのが昔の「炭焼き」の人たちだ。彼らは異口同音に言う。

「人とのトラブルが取沙汰されるが、本来クマははにかみ屋で、俺達には何時も遠慮しながら動いていたよ」と。津久井町青根（現相模原市）で炭焼きをしていた山口文一さんは「山に立つ煙り」という著書（神奈川新聞社、1983）でクマとの関係を次のように綴っている。

「炭焼きの準備で山を見廻っていたら、撫（ぶな）の大木の皮が何者かに剥ぎ取られていた。爪跡からして犯人は熊。“数年はこの熊と暮らすのか。しかし、先住者は熊であるから何事にも私の方で遠慮するしかない”と自分に言い聞かせた。熊という奴、こちらが敵意さえ見せなければ、愛嬌のある面白い奴だということを知っているからだ。

例によって、朝、窯場に行くと対面の林をのそりのそりと歩いている。ところが、その素振りからして熊の方が先に私を見つけ、私を意識しているのがそれとなく分かった。熊はやがて、尾根を越え、私の視線から外れると見るや一目散に駆け出し、行方をくらませてしまった。」と。この一文には次のような「落ち」がつく。

「炭焼き仲間に熊をからかって酷い目に合ったのがいる。よせばよいのに彼は林の中で遊んでいる子熊を捕まえようと追い廻した。ところが突然親熊が現われ、今度は彼が追い廻される番になり、命からがら逃げ帰ったと言うのだ。この話を聞いた我々炭焼き仲間は腹を抱えて笑いころげたものだ。彼は、子熊の目の届く範囲に必ず親熊がいると言うことを、すっかり忘れてしまっていたのだ」と。ブナ林は、クマにとって古里とされ、丹沢には30～40頭が生息する。



～春～

酸性霧などの人為によって丹沢主稜のブナ林の衰退が取沙汰され、クマの影響が懸念される。

一方、久しく放置されてきた里地里山について、丹沢山麓では最近やっと、その再生への取り組みが進められるようになった。炭焼きは里山再生の核ともいえる作業だ。

ところで、クマが人里に現れるたびに俄かに共存の道が言言されるが、丹沢の場合、答えの鍵は大局的にブナ林の再生と里地里山の再生、この2つが握っている、と言っても良いだろう。

ともかく、ツキノワグマは丹沢の自然生態系を引き締める立役者であることは間違いない。前述の山口さんの一文に見る。

“熊と炭焼きとの心理的關係”は正にブナ林文化と言うにふさわしい。共存の道を探る魅力あるテーマだ。

私の認識

野鳥その83

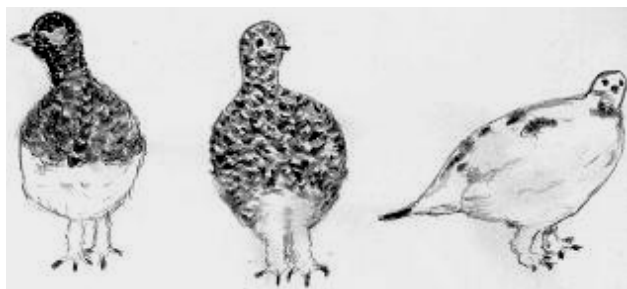
高橋 恒通

今月はキジ目ライチョウ科の留鳥で国の特別記念物と特殊鳥類に指定されているライチョウ（漢和名：雷鳥、英名：Rock Ptarmigan、体長L=36cm）のご紹介を致しましょう。

実を言いますと私自身は生きた実物を観てません。剥製のみですが、私にとってはトキ、タンチョウ、コウノトリ、そしてアホウドリと同列でライチョウは印象深く話題性の豊富な野鳥と言う認識があります。その為に生きたライチョウを幾度も観た如き錯覚に陥っている事を承知の上で解説します。

棲息環境は高山のハイマツ帯です。体色は♂♀異色、夏羽と冬羽で大変な色違いです。

既にご案内の通り♂♀共に冬羽は全体が白色ですが、♂は過眠線と尾羽の先が黒色で、目の上には皮膚の露出した赤色部があります。これを肉冠（ニクカン）と称します。♀は尾羽の先に黒色がありますが♂より少なく、全身白色。



嘴は黒っぽく猛禽類ほどではないが鉤状ですし、脚は指先、爪の生え際まで白い毛に蓋われています。

夏羽♂は額、喉下、翼、上下尾筒は白色で他は黒褐色です。赤色の肉冠はそのままです。

夏羽♀は頭部、喉下、胸、上面は黒褐色、黄褐色、白色が横斑模様で他は白色です。

夏羽と冬羽の大きな変化はイヌワシやクマタカなどの天敵から身を守る保護色の典型と言われてます。

繁殖期は番で行動し、♂は縄張りや天敵を見張る為に、日中は見通しの良い岩やケルンの上に居るそうですが危険を察するとハイマツの下に逃げ込みます。悪天候時や朝夕には開けた場所に出て、植物の種子や芽や若葉、そして昆虫類も採取します。

冬は群れで積雪の少ない場所を選んで生活します。また、雪の中に穴を掘ってそこで眠ることもあるそうです。

ライチョウの運動能力の特長はキジなどに似て歩行が得意ですが、飛翔は不得意で、飛ぶ時には激しく羽搏いて滑翔します。

我国のライチョウと同種は地球規模の棲息分布域が、スコットランド、ノルウエー、シベリア

北東部、アラスカからカナダ北部とグリーンランドにかけての地域です。従って我国のライチョウは氷河期の名残で、然も北半球では日本が南限棲息域と言われてます。日本では本州中部の日本アルプス、立山、越後の焼山、火打山などに分布してるそうです。

尚、我国では不心得な登山者が弁当の残りを捨てたりします。するとこれを食べるにネズミがやって来る。このネズミを捕食する為にキツネがやって来る。キツネは本来、ネズミの天敵ですが、イヌワシから逃れてハイマツの下に隠れているライチョウが恰好の餌になり食べられたりする悪循環があるのも事実です。勿論、殆どの登山者はマナーやルールをしっかりと守っている筈ですが、「食べ物は自然に分解されて土に還るのだから・・・」と勝手な解釈で食べ物を捨てる登山者が居るのも現実なのです。自己中心の行動は厳禁です。

大自然は極めて繊細な均衡の上に保たれているものと私は認識しております。そして今、氷河期の生き証人の愛すべきライチョウが地球温暖化と言う我々人間の営みが生み出した圧力で日本から消滅する時が迫っているのでは・・・と私は心配で堪りません。因みにライチョウは、長野、岐阜、富山の3県共通の県鳥に指定されております。

＜参考文献＞

◎フィールドガイド 日本の野鳥 野鳥ブックス②
高野伸二著 (財)日本野鳥の会

仲野三男さんの米寿を祝う<11月5日開催>

堀江 精三郎 (4期)

大先輩の仲野さん(4期)がこのほどめでたく米寿を迎えられました。そこで4期が主体となり、「**米寿を祝う会**」を開催しましたところ50名もの方々にご出席を頂き大盛会の宴を催すことが出来ました。旧公社時代に我々が大変お世話になりました、高林様始め大勢の皆様、財団でお世話頂いている皆様、そしてインストラクターの1期から10期までの皆様、大変お忙しい中を駆けつけていただき幹事を代表して厚く御礼申し上げます。

仲野さんはこのほど米寿の祝いだけでなく、今年の叙勲で長年の功績に対して瑞宝双光章を受賞され、今回はまさにダブル祝賀会となったわけです。

このように我々の大先輩が米寿になっても現役で元気で活動しているさまは、素晴らしいだけではなく、私には羨ましくもあるのです。インストラクターとして多くの事を教えられ、指導を受け、まさに我々にとっての生き字引でもあります。仲野さんにはこれからも、お元気でご活躍をお祈りしております。

活動短信

10/13~11/6

新入社員研修森林保全活動（間伐）

日 10月13日（水）9時半～12時
場 やどりき水源林 パートナー林
参 （株）日立電子サービス 新入社員 88名
 スタッフ 15名

県 自環保 内田、小司、
イ L 斉藤⑥、島岡③、高崎④、宮本④、伊藤⑦、
 久保⑧、松村晴⑧、村井⑨、小笠原⑩、
 福島⑪、

日立電子サービス H22 年度新入社員研修の一環として森林保全活動が“DENSA あんしんの森”と人数とスペースの関係で神工舎さんのパートナー林をお借りし2手に分かれて実施した。

事前の下見確認、打ち合わせを済ませ10時15分より開会式、セレモニー、記念撮影が終了作業開始は11時頃になった。“DENSA あんしんの森”の4班、40名の中には午後の講師となる作曲家、シンセサイザー奏者の喜多郎氏も体験された。

樹高15m以上の杉は事前に掛かり木処理の準備と新入社員のパワーにより掛かり木にならず豪快に倒れるさまに森林保全の意義を感じとったようだ。一方、神工舎パートナー林は密集した桧と足場も悪く、掛かり木も多く時間内に処理出来なかった班もあった。放置は危険なので昼食を返上して処理した。

午後はシンセサイザー奏者として世界的に活躍し又自然環境保護活動にも力を入れている喜多郎氏の講話と竹や木で作った即席の楽器の演奏なども聴講させて頂いた。大変ユニークな意義ある研修でした。（記 6期 斉藤）

秋の自然観察会

日 10月16日（土）曇り 9時～12時半
場 横浜市立芹が谷中学校・校内敷地中学校林
参 生徒8名+地域の方10名+教師2名
財 古舘
イ L 井出①、武者⑦、

天気は曇りでした。地域の高齢者が参加されてそれほど広くない学校内の自然環境を初めて観察体験されて楽しまれた。生徒たちは環境活動部で、昨年も開催されたそうです。観察終了後は、生徒たちが学校林清掃後集めた枯れ枝等をカマドで燃やし、焼き蕎麦を作り、我々及び地域の方々に振舞われ、生徒と一緒に食しました。

来年は、インストラクターが説明するのではなく、ぜひ環境活動部の生徒が、地域の方々を招待して、部活の成果を話できるとよい、と話をしてきました。（記 7期 武者）

高取山登山&自然観察&ディスクゴルフ

日 10月20日（水）
場 愛川ふれあいの村・高取山
参 横浜市立三保小学校、4年生162名
 教師14名、ボランティア4名

イ L 堀江④、SL 佐藤⑤、友谷①、足立④、
 高崎④、鈴木⑥、小野⑦、武者⑦、白畑⑦、
 浦野⑧、野田⑧、松村（俊）⑧、三浦⑧、
 内野⑨、海野⑩、杉崎⑩、

「小雨程度なら、傘をさしてでも歩きたい」という学校側の要望があったので、はっきりしない空模様の中、雨具を着て高取山目指して出発する。206名が連なるので、立ち止まる余裕はほとんど無く、自然観察はままならなかった。

4年生だが、へこたれる事も無く元気に山頂に着く。山頂は狭いので先に着いた2クラスは少し下った所でお弁当となる。下山途中で、少々疲れが見えていたが、ふれあいの村に着いてひと休みするとパワー復活で、午後のディスクゴルフに飛び出していた。4年生、皆、素直で可愛い子供たちだった。

（記 7期 白畑）

森林循環フェア

日 10月22日（金）～24日（日）
場 小田原アリーナ
入場者 約 17000人（3日間）

イ 1日目 米本②、大道⑥、坂齋⑦、
 2日目 米本②、森本⑤、上宮田⑪、
 3日目 米本②、村井⑨、上宮田⑪

今年の森林循環フェアは「小田原・箱根木製品フェア」と同時開催でした。今回初めてグッズ販売に参入、新たな販路の開拓になりました。体験イベントの木工工作教室では、かなばロケットづくりを用意しました

<かなばロケットづくり>

かなばロケットのキット150コ・カタパルト（飛ばし器）300コ・ロケットラワン450コ用意しましたが、混雑しているときはロケットラワンを中心にしたのでキットは少し余りました。

カタパルトは全部出て、ロケットラワンは400コ位使いました。会場は天井が高く実演でロケットラワンを飛ばすには絶好の場所でした。

参加者には高く飛ぶのと、めずらしさもあって喜んでもらえたと思います

<グッズ販売>

フクロウグッズが人気でした、お客さんの声で同じく縁起物で、カエルのグッズの要望がありましたので、会でもカエルグッズを新製品として開発したいと思いました。

3日目は村井さんの参加で、バードコールをひねるとカラスが鳴きました。子供が一生懸命ひねってもカラスは鳴かなかったようです。（笑）

3日間の売上合計は¥54,000でした。

（記 2期 米本）

間伐 下草刈り 自然観察

日 10月23日（土）晴れ 10時半～14時
場 県立21世紀の森
参 （株）日立製作所・日立グループ
 「箱根の森 再生プロジェクト」130名

イ L 斉藤⑥、高橋③、渡辺③、横山⑤、山崎⑦、浦野⑧、飯澤⑨、内野⑨、村井⑨、宮下⑩、雲ひとつないすがすがしい秋空の下に、130名の参加者が集合。社長さんのご挨拶でプログラムが始まった。渡辺インストラクターの講和は、「森林・生態系の保全」。森林の育成と保全、森林の働きや公益機能など、興味深いものであった。インストラクターが担当した活動は、間伐、自然観察、下草刈り。間伐は、基本的なやり方を学んだあと、選木、伐倒方向、受け口や追口、逃げ場、かかり木の処理など安全作業を現地で習得。全員協力しての伐倒。その時あたりから大きな拍手が。メンバーも伐倒の迫りに感激の様子であった。自然観察はどんぐりコース。人工林と里山の木々、ドングリと昆虫や動物とのつながり、秋に葉を落とすわけ、動けない植物が子孫を残す仕組みなどを理解しながらの1時間余りの観察会となった。途中、ガマズミやサンカクヅルなどの秋の味覚を楽しむことができた。下草刈りも汗をかく作業であった。午後2時。活動の終了である。もう少し時間があればという感じであった。快晴の元、心地よい汗をかきながら、事故もなくすべてのプログラムが終了。皆様大変ご苦労様でした。

(記 10期 宮下)

林内整備作業&自然観察

日 10月26日(火) 曇り/霧 10時~12時
 場 県立21世紀の森
 参 横浜市立西富岡小学校5年生81名
 引率 10名

イ L 杉崎⑩、杉戸⑥、伊藤⑦、白畑⑦、武者⑦、村井⑨、海野⑩、波多野⑩、霧に山頂が隠れる天気の中、児童は8班に分かれ平成7年に植栽されたセントラル広場前の林に入り、約40分間の除伐作業を体験した。鋸を手にしたのが始めての子も半分ほど居り、主としてアオキを対象にした作業であったが、すぐにノコの扱いにもなれ男子は大きい木に挑戦を、女子は幼木の整理を等々々自分の目標を作って、楽しんでくれた、往復の途中で木・草・花の幾つかの説明を行い、森林の役割についての質疑を交わし(全く興味を示さない子もいたが)良く勉強していると思わせる子もいた。

全員 元気にバスに乗り帰っていった。

(記 11期 波多野)

パートナー林活動(間伐・自然観察・クラフト)

日 10月23日(土) 晴れ、24日(日) 曇り
 8時~16時
 場 やどりき水源林・神奈川トヨタ森木会
 参 23日、36名(大人32名・子供4名)
 24日、36名(大人23名・子供13名)
 スタッフ 神奈川トヨタ(株) 両日各8名
 県 自環保 23日 小司・24日 安松
 イ 23日・L竹島③、井出①、安部⑤(間伐L) 中島⑨(クラフトL) 高橋⑨、一重⑩、
 24日・L飯澤⑨、落合③(クラフトL) 鈴木⑥、山崎⑦(間伐L) 一重⑩、

<間伐体験>

リーダーの間伐説明の後、パートナー林のスギ、ヒノキ間伐を実施。伐倒時の「ミシミシメリメリ」と音をたてて倒れる快感が堪らず、倒れる瞬間、大人も子供もみんな『倒れるよー!!』『倒れるぞー!!』歓喜の声が出て拍手喝采・・・ヤッターヤッター! 無事に怪我もなく、満足度 120%。

<自然観察>

自然観察は23日、竹島、高橋グループ
 24日は飯澤、鈴木グループに分け、やどりき水源林をご案内。水源涵養林の大切さなど説明。再び花の咲き誇るシーズンに訪れたいとの声しきりでした。

<どんぐりトトロ>

マテバシイ、クヌギ、モミジバフー、メタセコイヤ等のどんぐり、木の実等、又間伐材の台座を利用して森のクラフト“どんぐりトトロ”作りは2日間共に大盛況!! 子供さんも夢中なら、保護者も夢中になって時間が足りない程であった。

間伐も自然観察もどんぐりトトロづくりも、水源林を訪問したのも初体験でしたが、本当に良い体験が出来たと喜ばれていらした。家族の絆づくりに多少なり貢献出来たとすれば嬉しいです。

(記 11期 一重)

初日「第33回かわさき市民祭り」街頭キャンペーン

日 10月29日(金) 曇り時々晴れ・9時~16時半
 場 川崎市富士見公園
 参 一般市民 352名(大人287名・子供65名)
 主催 県民との協働による森林づくり実行委員会
 財 高橋課長
 イ L 渡辺③、落合③、国分③、高橋③、堀江④、齋藤⑥、武本⑦、坂齋⑦、渡部⑦、中島⑨、青木⑩、海野⑩、小笠原⑩、金森⑩、時田⑩、

- ① 受付(リーフレットとクイズの解答景品渡し)
- ② 紙芝居(水源涵養実験装置を用いた説明・クイズ)
- ③ 丸太切り
- ④ クラフト教室(丸太切りした材を台にどんぐりトトロづくり)
- ⑤ 抽選会(緑の募金に協力された方のために・・・豪華賞品多数)などの班編成でスタート。曇り空で時折薄日が差す天候の中、10時過ぎより段々と人が出て来るようになり、クラフト教室の椅子も一杯に、平日とあって中高年の方が多いように見受けられた。4時を過ぎると人もまばらになり4時半に終了。今日のキャンペーンは「水源の森林づくり事業」とか「森林の大切さ」よりもクラフト教室のどんぐりトトロに惹かれた方々が多いように見受けられた。

(記 10期 青木)

2日目「かわさき市民祭り」街頭キャンペーン

日 10月30日(土) 豪雨(台風14号)
 場 川崎市富士見公園
 参 0(イベント中止)
 主催 県民との協働による森林づくり実行委員会
 財 鳥海

イ L竹島③、落合③、森本⑤、永野⑥、伊藤⑦、武本⑦、草野⑧、齋籐⑧、中島⑨、村井⑨、小笠原⑩、金森⑩、時田⑩、大塚⑪、松本⑪、9時半集合。台風の為に「かわさき市民祭り」は当日に中止になりました。集まったメンバーは主催者の指示のもと資材や机などの撤去作業を行い午前中には作業を終えました。会場からの帰り道に仮装した姿の子供達とすれ違い、地元の皆さんが市民祭りを楽しみに準備していた事が分かりました。

森林インストラクターの日頃の活動でも、参加者や地域住民に親しんで（毎回参加を楽しみにして）貰えるように、これからも活動を頑張りたいと思いました。（記 11期 大塚）

自然観察

日 10月28日（木）雨 10時～12時

場 やどりき水源林

参 川崎市立宮崎小学校・5年生・5クラス

183名（児童174名、教師他9名）

財 古舘

イ L坂齋⑦、高橋③、宮本④、須長⑥、伊藤⑦、久保⑧、野田⑧、松本⑧、内野⑨、小沢⑨、村井⑨、海野⑩、酒井⑩、杉崎⑩、

雨のため、全体の挨拶は省略し、それぞれのバスの中へインストラクターが入り簡単なオリエンテーションを行う。やどりき水源林入りロゲート前より14班に分かれて、各インストラクターに引き継がれ三々五々Bコース及び林道コースに分かれて出発！

やどりき大橋の先、樹洞を指差しムササビの説明をするインストラクターや山の神を祭っている祠へお参りするチームなど、やどりき水源林ならではの観察会に子供達はそれなりに楽しかったようでした。バスへ12時に生徒たちを案内し、雨中の観察会は終了。お昼を済ますと生徒達は川原に出て、再度水源林を楽しんでいましたが、改めて天気の良い日にもう一度水源林を案内してあげたいと思った観察会でした。

今回の観察会は10/18（月）に下見を行い、25日（月）の本番の予定でしたが思い違いによりこの日の雨の中の観察会となりました。派遣要請者、案内人（インスト）参加者の三者間のコミュニケーション不足により様々な教訓が見出された事を思うと貴重な観察会となりました。（記 9期 小沢）

「平成22年度 川崎市里山ボランティア育成講座」 中級編・第四回

日 10月30日（土）雨

場 生田榎戸特別緑地保全地区（多摩区）

参 一般市民 11名（男7名・女4名）

スタッフ 川崎市公園緑地協会・川崎緑レンジャー 他 10名

イ L松崎⑤、佐藤⑤、渡辺⑧、

川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズ平成22年度の第四回目。今回は生田榎戸特別緑地保全地区で竹林の整備作業を実施する予定だったが、台風の影響で現場は雨、

風が強く、急遽雨天プログラムに変更、午前中のみの活動となった。9時30分現地集合、オリエンテーションの後、当現地を活動拠点とする、生田根岸古墳の杜保全会・会長の南さんから現場紹介、活動紹介がなされ、その後竹林の中を歩き、近くの地区会館に向かった。10時30分、再び生田根岸古墳の杜保全会メンバーで、かわさき緑レンジャーでもある篠崎さんが現地での竹林整備の状況について説明、その後川崎市公園緑地協会の野牛さんが絵本「もうそっだけのおやこ」の読み聞かせを行った。最後に森林インストラクターの3名が「竹全般」「写真による竹林の整備」「神奈川森林インストラクターの活動」についてそれぞれ話をした。11時30分 次回の活動案内をし、解散となった。

今回は竹林整備の実技をしっかり行う予定だったものがあいにくの雨で実施できず、参加者も少々拍子抜けの感じだった。しかし台風が来ている状況で、実施は危険であり、実作業中止は適切な処置であった。

第五回は12月11日に黒川野外活動センター（麻生区黒川）で、植樹斜面の手入れ、竹林整備および自然観察会を行う予定。（記 5期 松崎）

「平成22年度 川崎市里山ボランティア 育成講座・入門編 第四回」

日 10月31日（日）曇り

場 生田榎戸特別緑地保全地区

参 一般市民 13名（うち子供4名）

スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか9名

イ L清水⑧、相馬⑤、井口かおる⑧、三浦⑧、小林⑩、金森⑩

計六回講座の第四回目。前日の台風一過とはならず曇り空の過ごしやすい気候であった。参加者は最寄り駅からの地図歩行にも慣れたのか、難しい場所ではあったが時間通りに集合。現地活動する団体からフィールドの説明の後、3班に分かれて作業を行う。作業はモウソウ竹の間伐と竹工作の材料を確保すること。親子の参加は、まず親が経験し子供に伝えることを徹底する。今回は作業時間をたっぷり1時間以上とった。竹林での作業は初めての方から毎日行っている方までレベルの差はあるものの、やり方はインストラクターの指示に従い、各自1本以上の青竹の間伐と枝の片付けを行う。片付けは特に時間をかけ丁寧に行う。枯れた竹が入り組んでいた竹林が部分的ではあるが綺麗になった。

後半は竹の知恵の輪を習得、また、竹工作（カップ・皿・箸・桶・灯籠・貯金箱など）を時間が許す限り楽しんだ。材料を持ち帰った参加者も多く、好評のうちに時間通り解散。

（記 10期 金森）

動物観察&森林の話&里山の話

日 11月5日（金）晴れ 13時～15時

場 愛川ふれあいの村

参 横浜市立川井小学校 5年生 60名
教師他 10名

イ L村井⑨、高橋③、鈴木⑥、大野⑨、小沢⑨、

学校からの要望は、歩きながら「自然と人との関わり」「里山の話」「人と動物・植物との関わり」を重点的に話してください。「子供たちが、自分で「人と自然との関わり」を発見することが今回の目的ですので、そこまでたどり着けるヒントを今回の自然散策で与えてください。

下見では、動物たちの足跡・食痕・落とし物、雑木林では萌芽更新、数少なかったが収穫もありました。それをどう組み立てて行くのかが？インストラクターの腕の見せ所です。さて本番は、元気すぎるチームを大野さんと私が持ち、4チーム編成にしました。共有認識として、愛川ふれあいの村に棲息しているであろう鹿、たぬき、猪、ムササビ、テンを1人3分で紹介して各コース活動開始！五感で自然観察、もぐらの穴（食物連鎖）、雑木林では里山の今昔、（萌芽更新）フィトンチット、種の散布（植物の戦略）食痕から動物名とその時の状況を考えさせてみた。暗い森の植物等など、歩く先々で話題をかえながらの自然観察でした。

（記 9期 村井）

自然観察&アオキの除伐

日 11月6日（土）晴れ 10時～15時
場 県立21世紀の森
参 神奈川SR経営労務センター 19名
イ L小沢⑨、竹島③、松本⑧、

マイクロバスにて10時に駐車場に集合、インストラクターの紹介から山の話、水道水の話等を終え、体操の後、天然の森コースを観察しながらセントラル広場を通り、休憩所の先の見晴らし台で頂上に雪が載った富士山を見て記念写真を撮る。12時に昼食後、内山林道沿いの林にてアオキの除伐をスタート【当初の予定は10/30（土）参加人数30名の予定でしたが台風の為延期】作業に入ると瞬く間にアオキが無くなり広葉樹が顔を出し気持ちのよい汗とすっきりとした林内を見渡し、やり終えた満足感を味わい2時に下山となる。道具の整備を行い、県民参加の森林づくり、成長の森、やどりきの案内等の話をしてお別れの挨拶と成り、3時に終了した。（記 9期 小沢）

パートナー林活動・（枝打ち・間伐）

日 11月6日（土）晴れ
場 やどりき水源林・連合神奈川パートナー林他
参 大人99名 子供3名（計102名）
スタッフ 連合神奈川事務局 野村会長他11名
看 2名

イ L高橋⑨、島岡③、佐藤⑤、横山⑤、大道⑥、永野⑥、小野⑦、山崎⑦、有坂⑧、齋藤⑧、海野⑩、大澤⑩、宮下⑩、波多野⑩、山下⑩
 連合神奈川の育林活動は1991年より19年にわたり「育林（植樹）祭」として実施されてきており、「水源林パートナー制度」スタートの1999年より、やどりき水源林にも連合神奈川の森を設定し、現在に至っているとの紹介があった。

約120名の参加者は15班に分かれ、連合神奈川の森と登山道付近のパートナー林に別れ間伐を行った。

実質1時間の制限があったため、各班1本の間伐を目標に作業を開始したが、班構成、実施場所、熟練度、伐採木の選定等でかなりのばらつきもあったが、多くの場所で掛かり木となり予定時間一杯で終了した班が多かったようである。

私の班は若い人が多く、人員も多い方であったが、経験者は2名でほとんどが初めての体験者という構成であった。伐採の結果は掛かり木となり時間一杯まで作業する結果となったが、参加者には山の作業の一端が経験できたのではないかと思う。各班とも怪我人もなく、次のバーベキュー会場での昼食へ移動し、昼食を取りながらの交流が行われた。

（記 9期 高橋）

除伐体験&バウムクーヘンづくり

日 11月6日（土）晴れ 9時～15時半
場 小田原市いこいの森
参 一般市民 28名（大人13名・子供15名）
スタッフ 小田原市森林組合 佐藤
イ L久保寺⑦、村井⑨、杉崎⑩、大塚⑩

小田原市が親子を対象（子供は小学生）にした森林イベントで年数回テーマを変え行われている。

定刻9時に林内集合地で主催者より、当日のプログラム説明と除伐の話・注意事項の後僅かな距離を除伐地に移動する。除伐現場は概ね平坦であり子供達には恰好の場所で対象木は主にアオキ。4班に分かれた作業も開始から30分もすると子供達も除伐要領を覚えスムーズな親子共同作業が行われた。11時30分に約2時間の除伐作業は終了する。

昼食後インストラクターから、森の手入れ・林内植物について子供向けに話をし、午後のプログラムお楽しみバウムクーヘン作りに移る。全て主催者により準備されているので、インストラクターの役割は主に焚き付けのお手伝い。ここでも除伐作業同様に成果を期待し、親子の熱心で楽しい共同作業がみられた。4グループとも美味しいバウムクーヘンが出来上がり15時30分終了する。

参加者アンケートには、除伐作業・バウムクーヘン作りとも楽しく参加出来て良かったとありました。素晴らしい秋晴れも後押ししてくれました。

（記 7期 久保寺）

活動短信の投稿について・・・お願い！！

日付 **天候** **活動時間** **活動場所** **参加者数**（大人・子供又は男、女）**参加団体名** **スタッフ名** **財**
団の参加者名 **県**（自然環境保全センター・自環境の参加者名）他 **看護師名** **インストラクター名**
リーダー名 **参加者の期を** **投稿者名**も忘れずに
 ＊活動内容は400字ぐらいでまとめてください。
広報部

**やどりき水源林
ミニガイド**

11月のトピックス



ゲート前の10月桜が見頃です

12月の水源林



新雪の水源林が見られるかもしれません。

「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度（12月1月2月休止）
- 集 合：水源林入口ゲート前
- 内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(社) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255
fax:045-412-2300
- ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
- E-mail:midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄（やどりき）」行き乗車約25分。バス下車後（案内板あり）川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

県のたよりを飾る写真募集します

内容：四季折々の神奈川の魅力を紹介する写真 撮影期間：21年12月1日以降 応募期間：12月15日～23年2月4日 募集案内：県広報課 045-210-3662 で配布中



◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送先

<①電子配信担当>

森 義徳
〒232-0053
横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛 045-590-1910>
Mail: myforest@yha.att.ne.jp

<②メール・手書き原稿送り先>

【本誌】村井正孝
〒226-0002
横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax: 045-476-4112
Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖
〒227-0038
横浜市青葉区奈良2丁目10-5
Tel/Fax: 045-961-6695
Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001
東京都町田市つくし野2-13-7
Tel/Fax: 042-796-6011
Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp
原稿の締切は毎月20日です。

編 集 後 記

★様々な活動を記録するためブログを始めました。森林・竹林、野鳥・昆虫、植物・水生生物、クラフト・炭焼き、釣り・料理、環境などなど毎朝更新、多くの方が見えています。お時間あればどうぞ <http://morinotabibito.sblo.jp/> (金森)

★生物多様性の国際会議がおわった。今回明らかになったのは、この自然の恩恵が無いと、人間の健康も維持できない事が、明確になった。風邪を引いている。この葉は、果たして、どんな生物植物から出来ているのか。感謝。(鈴木松)

★短い秋が過ぎて、水源林に冬が忍び込みます。やどりきの虫たちも冬の支度に忙しそうでした。(森)

★家電店がエコ特需でにぎわっているようですが、私もプラズマテレビを購入しました。少しでもエコポイントの一部(端数分)をトラストみどり財団に寄付することにしました。(井出)

★26日、神奈川県公園協会主催の「紅葉の箱根で落ち葉かき体験」に参加してきました。未明までの雨がたたって参加者が減り、スタッフ13名、参加者8名、ロープウェイが後援だったので、桃源台～大涌谷まで無料乗車(貧乏な私は大喜び)落ち葉かきは大涌谷コース“弘法の硯り石”付近で土嚢袋150達成。落ち葉は湿生花園の木々に利用するそうです。袋にそれぞれ自分の名前を書いているので名前を言えばお休み中でも湿生花園を見学できる特典つきでした。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(領 価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫 (HP) 金森 巖 (別冊)

鈴木松弘 森本正信 森 義徳

鈴木 朗 上野潤二

～ 春 ～

TANZAWA TANSHIN

秋の一日、丹沢を歩いてきました。コースはやどりき管理棟より後沢の作業道をつめ後沢乗越にて鍋割山へ、下山は鍋割峠から寄沢～やどりき管理棟です。

静かなコースから後沢乗越へ出たとたん二俣からの登山者が長蛇の列。鍋割山の人気一端がうかがえます。山頂も満員で人気の鍋焼きうどんにも長い列が出来ていました。寒くなりだすと温かいものの人気は

さすがです。下山は鍋割峠へ向かいます。ここまでは短い登山道ですがかなり荒れてます。歩きにくい！さて、紅葉ですが今年の美しさは近年稀なる巣晴らしさではないでしょうか。私も寄沢の兩岸のこんなに美しい姿を近年見た事がありません。特にモミジの赤の素晴らしさは文句なしです。(記 4期 堀江)

- 目 録 H22 11/27 (土) 晴れ
参 L堀江④、鈴木友③、武者⑦、愛木⑦、有坂⑧、松村俊⑧、飯澤⑨、鈴木朗⑨、辻村⑨、波多野⑨、水口⑨、高井⑩、12名